

市議会各会派からの意見への対応一覧

市議会各会派からの意見への対応一覧

No.	議案ページ	該当箇所			意見内容	市の考え方・対応方針(案)	
1	-	全体	-	-	-	十分に時間をかけて市民意識を聴取し、また今後ははっきりと見えてくるポストコロナを見据えられるよう、1年前倒しの策定をやめ、予定通り現行のトライプランを遂行し、1年後に改めて策定を行うことを求める。 従前の執行部の説明では、タイトなスケジュールだがしっかりと市民意見も聴取した上、来年度予算案にも反映できたとあった。しかし、8月上旬に開始されるはずだった総合計画審議会は3週間も遅れようやく8月23日からのスタートとなった。6月の総務常任委員会において、このタイトなスケジュールには多くの議員からも懸念の声が上がっていた中、3週間の遅れは致命的と考える。 現行では、総花的な総合計画が十分な市民意見も集約されないまま、行政案ありきで進められる懸念が大変強い。 現下のCOVID-19の状況は判断を許さないものであり、ワクチン接種が今年度中に進むとなれば、数年にわたり当面の間はCOVID-19の影響は完全に拭い去れないものの、現下よりも遥かにポストコロナの時代を見通すことのできる可能性が拓ける。1年後の方がより、先の未来を見通すことができる。総合計画策定に向けた今年度の努力は無駄にはならない。1年間、しっかりと市民意見を聴取し、また、はっきりと見えてくるポストコロナを見据えて、1年前倒しの撤回を求める。	新型コロナウイルス感染症をはじめとする、様々な社会状況の変化に迅速に対応し、「世界が憧れるまち“小田原”」を実現するため、令和4年4月から新たな総合計画をスタートさせる考えです。 なお、総合計画審議会の開始時期はずれ込んだものの、予定の終期までに必要な開催数(審議の機会)は確保しています。 また、コロナ禍という状況下においても、様々な手法により市民意見をお聞きしています。そして、計画への反映は、市の考えを総合計画審議会へ提示した上で判断することから、広範な意見を踏まえた総合計画になると考えています。
2	-	全体	-	-	-	P4のストリート P7のコンパクト・プラス・ネットワークや、デジタルトランスフォーメーションなどわかりにくい用語には注釈を入れる。	市民にとって分かりやすい表現に努めるとともに、分かりにくい語句には注釈を追記します。
3	-	全体	-	-	-	コロナ感染が増大してきています。総合計画のスタートを引き延ばしていただきたくお願いします。十分な議論を行っていただきたいということです。	No.1と同
4	-	全体	-	-	-	総合計画の策定は、市民が今後のまちづくり等に関して、心より期待し、かつ希望の持てる分かり易い内容にするため、より具体的な施策及び将来像を示すべきである。	施策等の具体的な記載については、市民にとって分かりやすい表現という観点から検討します。
5	-	全体	-	-	-	「TRYプラン」の時には、同じ内容等が別の冊子に違う表現で記載されていて重複していた感がある。何種類も冊子を作らなくても良いと考える。	第5次総合計画は、基本構想・基本計画・実施計画の三層構造としていましたが、第6次総合計画は、基本構想・実行計画の二層とし、計画書一冊で事業についても明示していきます。
6	4	序論	3 ウィズコロナ、ポストコロナ社会に向けた視座	-	-	ここについてはすでに質疑してきたが、新型コロナウイルス感染症に対する対策については「しっかりと取り組んでいくというのは大前提」とのことでした。そのことが市民に伝わるように、緊張感をもってぜひ市民には安全安心、希望が持てるように表現の修正をすべきだと再度申し上げます。	新型コロナウイルス感染症については、現在も様々な対策を講じています。総合計画への記述の有無に関わらず、今後も状況に応じて必要な対策は確実に実施していきます。
7	5	序論	4 社会情勢の変化と本市の課題	-	-	国・社会の要請や取組の必要性だけでなく、本市が直面している課題を具体的に述べるべき。	本市の課題については、「4社会情勢の変化と本市の課題」及び「人口シナリオ」において記載しています。
8	5	序論	4 社会情勢の変化と本市の課題	(1)新型コロナウイルス感染症の影響	-	COVID-19がどう小田原市を襲い、どこに綻びが出たのか、その影響の分析が全く行われていない。総合計画を策定するなら、COVID-19で浮かび上がってきた小田原市の弱点を正確に分析し、それを総合計画に反映させる必要を感じる。	新型コロナウイルス感染症については、「新型インフルエンザ等対策行動計画」に準じて対策を講じてきましたが、ワクチンや治療薬など、想定を超えた感染状況となり、全国的に大きな混乱を生じています。 こうしたことの検証は、今後、国をはじめ各自治体で行われていくと考えていますが、総合計画の中の感染症対策や、市施策への反映などについては、いただいたご意見も参考にさせていただきます。
9	6	序論	4 社会情勢の変化と本市の課題	(7)社会のグローバル化	-	外国人労働者の受け入れ、とあるが、人口増加をめざすのであれば程度の規模の外国人労働者の方を増やしていく政策が必要であると思う。外国人労働者の方が、安心して働き暮らすことができる環境づくりを市としても進めていく必要がある。	「外国人労働者の受け入れ、」の箇所はグローバル化の進展による国内概況を記載したものです。なお、外国籍住民への支援取組、国などの関係機関との連携等により、外国人の労働環境づくりを充実していくほか、重点施策5(3)を世界とつながる機会しており、外国人にとっての生活の場として選ばれるまちを目指してまいります。
10	8	序論	4 社会情勢の変化と本市の課題	(11)行政に求められるもの	-	限られた財源を計画的に運用することで総合計画の着実な推進を図り、併せて厳しい財政状況を広く市民に公開し課題を共有するため、財政見直し、財政目標及びその計画的取組を盛り込むべき。	財政見直し等については、総合計画と合わせて市民に公開するため盛り込む予定です。
11	8	序論	4 社会情勢の変化と本市の課題	(11)行政に求められるもの	-	総合計画の着実な推進には、行財政改革との一体的取組が不可欠だと思われるが、その観点が不在。	「3 まちづくりの推進エンジン」の一つに位置付けた「(1)行政経営」に行財政改革に取り組む必要性を記載するとともに、行政改革実行計画に基づき取組を推進していきます。
12	11	序論	5 市民アンケート調査結果	-	-	娯楽や余暇を楽しむ場が少ない、という意見が最も多い。特に20代30代の若い世代にとっての、娯楽や余暇を楽しむ場について、しっかりと深掘りして分析し、具体的な対応策を示すべき。	若者の視点を取り入れて、まちづくりを進めていくことが必要であると認識しており、今後、若者の意見や考え方を聞きながら、また、民間の力も十分に発揮していただき、人々が集いにぎわい、若い世代にとっても魅力のあるまちづくりを進めていきたい。

市議会各会派からの意見への対応一覧

No.	議案ページ	該当箇所			意見内容	市の考え方・対応方針(案)	
13	11	序論	5 市民アンケート調査結果	-	-	「5市民アンケート調査結果」について、約15年前の「市民満足度・重要度調査」との比較検証を記載し、新たな総合計画の見直しにおいて指針とすべき事項等について記載すべきである。	平成19年度に行った市民満足度・重要度調査の結果と、傾向は大きく変わらなかった。しかしながら、計画の見直しにあたり、市民の意識と施策の方向性を確認するために、今後継続的に調査を実施することを検討したい。
14	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	-	人口20万規模というのは、答弁によると何人から何人規模といった数値は持たない、とのことだったが、20万人以上であるとか、19万5千人から20万5千人であるといった規模感を示すべき。	人口20万人規模の都市を掲げた意図は、掲げた目標に市民や民間事業者等の共感を得て、それぞれの現場で、実現に向けた取組を共に進めていくこと、言い換えれば、人口20万人規模の都市を目指すことを旗印に、小田原の力を結集していくという考えです。こうした趣旨を踏まえ、表現については、市民に分かりやすいという観点から検討したい。
15	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	-	人口20万規模を目指すことの必要性、実現可能性など、しっかりとページを割いて述べるべきではないか。	人口減少に歯止めをかけ、人口増加に転じることができるよう、本市の人口動態や課題を整理し、人口増加に向けた取組の方向性を、人口シナリオとしてお示しさせていただいた。人口シナリオの追記については、市議会や市民の意見、総合計画審議会での議論などを踏まえて、検討していきます。
16	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	-	小田原の「豊かな環境の継承」を土台に、スピード感を持ったまちづくりを進め、と記載されていますが、スピード感とは、何も変わらない感覚の事です。スピード感はその表記の「感じる」ことが重要であり、それで、速度が上がるとは何一つ言っていないことになる。スピードを持ったまちづくり、とか、迅速にという表記にすべき。	第6次総合計画について、計画期間を一年前倒して策定し、様々な社会経済情勢の変化に機敏に対応しながら施策を展開していきたいと考えており、このような趣旨を、分かりやすく伝えられるよう、スピード感を持って表現したが、総合計画における記述については、今後表現方法を検討したい。
17	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	-	「人口20万人規模の都市を目指します」⇒「人口の社会増を図り、現状を堅持します」に修正する。 (理由)人口シナリオの本市の人口動態の実績から、今後9年間で20万人達成は困難である。	人口20万人規模の都市は、高い目標ということは十分認識していますが、重点施策をはじめ、あらゆる施策を総動員して、その実現を目指したいと考えています。
18	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	-	「スピード感を持ったまちづくりを進め」⇒「市民と協働し、スピード感を持ったまちづくりを進め」 (理由)「わが国でも特筆すべきレベルに成長した市民力や地域力といった人の力があります。」と記述していることから、小田原市自治基本条例の理念を盛り込むべきと考える。	本市の市民力・地域力が全国でも特筆すべきレベルに成長し、既に、市民、事業者、地域、各種団体が主体的に活動を展開しています。こうした前提のもと、行政案を作成していますが、記述については、総合計画審議会での議論等を踏まえて判断します。
19	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	-	『都心からほど良い距離にあり、鉄道や高速道路のインフラが整備されている都市・・・』の表現の部分については、すでに整備完了しているようにとらえられ誤解を招くので、より市民等がイメージし易いよう、数値等を加えて記載すべきである。	インフラの利便性の維持や更なる向上を目指して、施策を展開していくことは実行計画でお示ししています。本市には、既に利便性の高いインフラがあるため、基本構想にこのように記載していますが、表現については、市民に分かりやすいという観点から検討します。
20	14	基本構想	2 まちづくりの目標	(1)生活の質の向上	-	「子育てに夢や希望が持てるまち」について、小田原の質の高い教育を受けた子どもたちが、社会を創る力を身に付けて成長している。とあるが、どのような質なのかかわれるところ。不登校やいじめのない学校は父母、児童・生徒にとって、重要なポイントになっています。ぜひ2030年を目指し、市立小中学校のすべての学校から不登校いじめゼロとすべくこのことを掲げてほしいものです。安全安心な学校であることがまず大切です。	すべての児童生徒が、学校教育を享受し、生き生きとした学校生活を送るため、不登校やいじめを未然に防ぐための取組は、大変重要なことと認識しています。ご指摘のとおり、安全安心な学校であることは大切なこととありますので、不登校やいじめを未然に防ぐための取組に引き続き注力してまいります。
21	16	基本構想	2 まちづくりの目標	(3)豊かな環境の継承	-	2030の姿の防災に関する記載に、ア、災害対策本部機能強化に関する具体的なイメージ及びイ、富士山噴火被害に係る方針等を盛り込むべきである。(注・概要版及び実行計画等についても同じ。)	参考意見とします。
22	17	基本構想	3 まちづくりの推進エンジン	(1)行政経営	-	全職員が一丸となって取り組むことが出来る様に、新たに(仮)「アクション会議」のようなものを導入したり、他の所管の進捗等を横断的に把握出来る様に工夫すべきである。	総合計画については、毎年度、施策等の達成度の評価・検証を行う予定であり、その結果を全庁で共有し、他の所管の進捗を把握できるようにしたいと考えています。
23	17	基本構想	3 まちづくりの推進エンジン	(3)デジタルまちづくり	-	個人情報保護に万全を期すのは当然のことですが、どのように万全を期すのか議会や市民に納得が得られないようでは市民の望むまちづくりとはかけ離れるだけです。よく考えていくべきです。	現状、専門調査会にて個人情報保護については必要な水準に達しているとの評価を受けております。今後とも、関係法令の規定を遵守し、市民に納得いただけるよう万全を期してまいります。